

科学的根拠に基づいた 耐性菌感染症治療 ～今日から使えるエビデンス～

10月9日(土)

18:00~19:00

LIVE配信

講演者

慶應義塾大学 薬学部 薬効解析学講座
松元 一明 先生

座長

帝京大学 医学部附属病院薬剤部
安野 伸浩 先生

黄色ブドウ球菌感染症が疑われ細菌検査結果が待てない場合は、経験的治療としてMSSAとMRSAの両者に対して、セファゾリンとバンコマイシンを併用し、感受性結果によりMRSAであればセファゾリンが中止となる。バンコマイシンはこれまでトラフ値に基づいてTDMが実施されてきた。しかし、トラフ値よりAUCを指標とした方が腎障害発現率が低下することが示され、現在その目標値はメタ解析により400~600 $\mu\text{g}\cdot\text{h}/\text{mL}$ と設定されている。

抗MRSA薬の中で経口薬があるのはリネゾリドとテジゾリドである。リネゾリドは低体重や腎障害患者では血小板減少症が発現し易く、副作用発現はトラフ値に依存する。そのためトラフ値を測定して投与設計を行うことが可能となれば、副作用発現を減らせると考えられる。一方でテジゾリドはリネゾリドより副作用発現率は低く、経口薬へのステップダウン療法、長期外来治療にはお勧めである。…(続く)

LM1010

LM1010高速液体クロマトグラフ

販売名: LM1010 高速液体クロマトグラフ
一般名称: 高速液体クロマトグラフィ分析装置
製造販売届出番号: 22B3X10009000003
一般医療機器(特定保守管理医療機器)

実際に薬物濃度を測定してみませんか!

体験セミナーのお申し込みはこちらから

メール作成用QRコード

E-mail: hhs-LM1010.fy.ml@hitachi-hightech.com